HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」52号
Issue Date	1979-12-04
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66684
Type	journal
File Information	yuin52.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館報

楡蔭

The Hokkaido University Library Bulletin　No. 52　Dec. 1979

西独図書館の思い出

附属図書館長　塩谷　饒

図書館に関しては最近まで一般利用者の立場を超えなかった私であるが，1年ほど館内での仕事を手伝ったことがある。いまから20年前，私は西ドイツの大学町マールブルク（人口5万）の方言研究所で勉強することになったが，ただちに大学図書館長ヘーニッシュ博士（日本文学の教授）に呼ばれて図書館での仕事を助けてくれないかと言われた。場所は大学附属図書館ではないが，Westdeutsche Bibliothek（西独図書館）といい，戦前ベルリンで威容を誇っていたプロイセン国立図書館を，戦争の進行に伴い当地に疎開させたものである。大学関係者もよく利用するばかりでなく，ドイツ連邦共和国全土にわたるサーヴィスが行きとどき，研究上の必要とあらば，東はモスクワから西はマドリッドに至る地域に遠隔地貸出をしているとのことであった。私の仕事は，その極東部で日本から購入した本の索引カード用のガリ版を切ることであった。著書名や本のタイトル，発行所の記入に関しては，むろんドイツ人より我々の方が早くできるから，図書館側でも多としたことは事実である。極東部の長はゾイバリヒ博士と言い，ヘーニッシュ教授の友人であったが，少年期を満州で過して白系ロシア人の学校に通っていたため，ロシヤ語に堪能で，漢字も上手に書け，多少日本語のわかる人であった。

このアルバイトは図書館側の財政的なつごうもあり，月に50時間を超えることはなかった。したがって研究上本末顚倒を招かず，その報酬によってドイツ語圏を広く見聞できたことは大へんありがたかった。そのうちにゾイバリヒ博士から本の購入選定の相談も受けるようになったが，日本人の書いたドイツ文学や語学書は一切買う必要がないと言われたときには，もっともだと思いつつ苦笑した。漢字が早く書けると言う理由で，台湾や中共からの本のガリ版切りもするようになった。初めのうち，不慣れな中共の略字体にとまどったことは言うまでもない。たまたま視察に来た日本の大学の中国文学の先生から中国語で話しかけられたこともある。懇親会などにも招かれるうちに，いろいろの職員と知り合ったが，各地から来て専門職についており，語学の達人が多かった。ヘーニッシュ氏でもゾイバリヒ氏でも，上述の言語のほか英語が流暢でいつでも来館者に直接説明できる体制にあった。専門職に数えられず，もっぱら図書の運搬役だった一老人は，整理のつごう上，自然に漢字の数を覚えていた。極東部における漢籍や日本文学書の充実ぶりには目を見張るものがあり，ここで一応日本文学も勉強できるわけである。ところで，これだけの本を誰が利用しつくせるか考えて見た。柳田国男や内村鑑三全集もあった。（ちなみに，北大では外国文学・語学の第1次資料が完備しているとは

言い難い。)ドイツの大学図書館については，本報の30号 (1972年9月) で，当時の文学部独人教師シュバンナーゲル氏が要を得た紹介をしている。コンピューターの導入もどうやらその時から軌道に乗って来ているらしい。私がなじんだ西独図書館も再びベルリンにもどり，殿堂ともいうべき建物で国立図書館としての機能を果しているそうである。

内外の事情を耳にするにつれ，図書館の整備とは何が問題なのか，原理的には分っていそうな事柄の具体的な処理の隘路は何か，次第に自覚されて責任を感ずる次第である。

◆ 会　議

第98回 図書館委員会

<と き　昭和54年9月22日 (土)>
<ところ　附属図書館会議室>

議　題

1. 外国雑誌 (文部省配当購入費) の取扱いについて
2. 閲覧個室 (第一種，第二種) について
3. そ の 他

報告事項

1. 附属図書館増築計画の経緯について
2. そ の 他

第63回 教養分館委員会

<と き　昭和54年9月21日 (金)>
<ところ　教養分館長室>

1. 演習室の利用について
2. そ の 他

全学図書 (担当) 掛長会議

<と き　昭和54年9月7日 (金)>
<ところ　附属図書館会議室>

1. 昭和54年度外国雑誌購入費 (文部省配当) について
2. そ の 他

第29回 北海道地区大学図書館協議会総会

<と き　昭和54年9月29日 (土)>
<ところ　北海道工業大学図書館>

標記協議会総会は，19大学44名が出席，北海道工業大学猪又図書館長が議長に選出され，次のように行われた。

報告事項

1) 北海道地区所在外国雑誌総合目録会計報告，　2) 第22回 (昭和54年度) 北海道地区大学図書館職員研究集会報告，　3) 各館界 (国，公，私立大学関係) の動向について，　4) 北海道図書館連絡会議についてそれぞれ報告があった。

協議事項

1) 北海道地区大学図書館協議会規約の一部改正 (案) について

これは，幹事館会議の組織，運営等について明文化する趣旨のもので，協議の結果異議なく了承された。

2) 第30回 (昭和55年度) 北海道地区大学図書館協議会総会の当番館について
3) 第23回 (昭和55年度) 北海道地区大学図書館職員研究集会の当番館について

協議の結果，総会当番館については，函館大学―引き受ける方向で検討中―が，研究集会当番館につ

いては，東日本学園大学が引き受けられた。

4) 北海道図書館連絡会議の取扱いについて

同会議への加盟に関し種々意見が交されたが，「慎重に対処すべきである。」との意見が多く，結局，継続審議扱いとなった。

5) 次期役員館の選出について

投票の結果，次のとおり決定した。

常任幹事館　北海道大学
幹　事　館　北海道教育大学，札幌医科大学，北海学園大学，札幌大学
監　査　館　小樽商科大学，藤女子大学

承合事項

札幌商科大学から承合のあった「各大学の図書館利用者教育の実態について」各館から文書で回答された。

第53次国立七大学附属図書館協議会

<と　き　昭和54年10月12日（金）>
<当番館　九州大学附属図書館>

標記協議会は，文部省より情報図書館課田中専門員，糸金大学図書館係長の列席を得て，国立七大学の附属図書館館長，事務部長，課長が出席して開催された。

協議題等は次のとおりである。

協　議　題

1. 「学術情報システム」と大学図書館
   (1) 学術情報流通システムにおける大学図書館の在り方（東京大学）
   (2) 学術審議会「今後における学術情報システムの在り方について」（中間報告）に対して，大学図書館がいかに対応すべきか，各大学の実情を承り協議したい（名古屋大学）
   (3) 大学図書館と大型計算機センターとの関係について（京都大学）
   (4) 学審中間報告に対する大学図書館の対応と要望について（大阪大学）
   (5) 研究図書館機能の充実について（東北大学）
   (6) 大学図書館の強化—特に定員の確保について（九州大学）
2. 図書館部・課長の俸給の特別調整額の増額をはかることについて，重ねて要望する件

なお，第54次（昭和55年）同協議会は，北海道大学が当番館として開催される

◆ 学内図書館だより

視聴覚資料の利用について

附属図書館教養分館は，本学図書館機能の充実を目指してその設置が計画され，昭和44年12月北キャンパスの現在地に竣工，開館した。その性格は学習図書館機能を主としたものであった。その後同館の拡充整備が望まれ，昭和51年10月増築工事を着工，同52年7月に完成したが，この増築を契機として4階に視聴覚資料コーナーを設ける構想が立てられた。

これは，語学演習資料・映画フイルム・ビデオ資料等を積極的に利用させることを目的としたものである。即ちこれら視聴覚資料等の利用は今後益々増加するであろうと思われることから現在の書物中心の考え方から脱皮して，新たに視聴覚機能を附加し，広く図書館としての役割りを果していこうとしたものである。

視聴覚資料利用の中心はビデオテープと16 mm映画フイルムであり，現在分館には，ビデオテープ約500本，映画フイルム53本がある。分野としては，医学・看護・生物・心理学・体育・スポーツ・語学の各資料が中心であるが，今後はできるだけ広い分野の資料を収集し，視

聴覚機能を充分発揮できるものにしていきたい。

なお，視聴覚資料の利用にあたっては，今後図書館機能充実のための一要素として，当該資料の活用を如何に考えていくか，その運営と共に広い見地からの検討がなされなければならない。

以下ビデオ資料等の利用できる施設設備等について簡単に紹介する。

○ビデオ視聴室

この室には，収納式デスク8席を設けてある。デスクにはビデオテープレコーダー・モニターテレビ・サーチコントロール・ヘッドホーンを備え付け，個別学習ができるようになっている。

○演 習 室

各室には，ビデオテープレコーダー・モニターテレビ・映写スクーリンを備え付け，指導教官が図書館所蔵資料を使用して学生のセミナーを行う場合に利用できるようになっている。収容人員8名以内の室が3室と20名以内の室が2室ある。

○視 聴 覚 室

この室は定員62名，機器は，120型カラープロジェクションシステム（16 mm映写機，ビデオテープレコーダー）を導入している。教官が図書館所蔵の資料を使用して学生に指導する場合等に利用できる。また，研修，オリエンテーションにも利用している。 （教養分館）

ビデオテープ利用統計

部局別利用数

学部＼年度	53
	本
文学部	53
教育学部	8
法学部	24
経済学部	15
理学部	42
医学部	60
歯学部	29
薬学部	9
工学部	135
農学部	6
獣医学部	10
教養部	1,982
各種学校	37
教職員	14
計	2,424

教養部（類別）利用数

類別＼年度	53
	本
文類	394
理類	1,120
水産類	141
医進	182
歯進	145
計	1,982

AVM分類による利用統計

AVM＼年度	53	備考
	本	
00 生活文化	339	心理学関係が多い
10 スポーツ	756	
20 歴史	121	
30 社会科学	—	
40 自然科学	669	医学・動植物関係が多い
50 工学	142	
60 産業	—	
70 芸術	81	
80 言語	254	英語関係が多い
90 文芸	62	文学関係が多い
計	2,424	

◆ 研　修

昭和54年度　大学図書館職員長期研修を受講して

坪　田　充　弘

本年度の標記研修は，8月6日から同31日までの約4週間，東京大学附属図書館を会場として開催された。

参加者は，国立大学31名，高専1名，私立大学5名計37名（男性24名，女性13名）であった。

この研修は，図書館業務の合理化・機械化によるサービス向上と情報提供サービスの質的改善を図るため必要な最近の知識及び技術を習得させ，その資質の向上を図り，大学図書館の近代化を促進することを目的として，1) 大学図書館の管理運営　2) 学術情報システムとコンピューター　3) 書誌情報とMARC　4) 参考業務　を柱として行われた。

以下このうちから幾つかを拾って紹介する。

○利用者の高度な要求に対応するため，大学図書館の近代的管理運営がより必要であり，業務の機械化・合理化がさらに推進されなければならない。また，書誌情報の国際的標準化とともに，Japan MARCの早期開発が望まれている。

○大学図書館と学術情報システムについて，1) 一次資料の収集整備　2) 情報検索システムの構成　3) 我が国独自のデータベースの形成など，これら機能を結ぶための利用技術の開発及びコンピューターネットワークの整備が進められている。なお，このことについては，学術審議会より出された「今後における学術情報システムの在り方について」（中間報告）で詳細に述べられている。

また，二次資料のデータベースの利用について　1) 筑波大学学術情報処理センターでのIDEAS/77　2) 東京大学大型計算機センターのTOOL-IRなどについて解説があった。これら二次資料のデータベースは外国からテープで購入し，各機関で編集しON-Lineでユーザーに提供するサービスを実験的又は実用化することに成功しているとのことである。このようなシステムの開発にともなって，一次資料の整備がより必要となってくる。そのためには一次資料の効率的な収集（各大学での収集，地域大学での収集，全国拠点大学での収集）と大学相互間における収集・提供の分担・協力のネットワークシステムの確立が必要となる。

○共同研究討議は，1) 一次資料提供の諸問題　2) 情報検索サービスの窓口機能についてどう対処するかについて，班別討議が行われ，それぞれの認識を深めた。

○施設の見学は，東京工業大学附属図書館，国文学研究資料館，日本科学技術情報センター，国立国会図書館，東京大学総合研究資料館など7カ所で，それぞれの特色をもって運営されており，非常に得るところが多かった。

この研修を通じて全国から参加した図書館業務担当者37名と共に研讃し，かつ，交流を深め得ることができたのは大きな喜びであり，この54年度研修生の人的ネットワークが，将来全国の図書館サービスを一層より良いものとするため大いに役立つであろうことを信じている。

おわりに，文部省情報図書館課および東京大学附属図書館並びに各講師の皆様方に大変お世話になりましたことをこの誌面をおかりしてお礼申し上げます。

（整理課学術情報資料掛長）

第22回（昭和54年度） 北海道地区大学図書館職員研究集会

<と き 昭和54年8月8日（水）>
<ところ 北海道薬科大学>

標記研究集会は，同地区17大学約120名が参加して開催された。

研究集会は，酪農大 武内千保，北星大 武本昇三両氏の司会のもとに，研究発表 1. 英米文学記事索引について—自館作成の上記索引「カード」，「冊子」の作業過程と利用の実状及び問題点—；藤女子大 佐藤昭子 2. 和雑誌における会議情報の収集・整理について；札医大 熊谷留理子（発表者），藤浦千恵子，中山純一 が行われ，次いで，北海道薬科大学 藤平教授の特別講演—クスリの文献調査—，さらに藤女子大 鈴木高明，札医大 野口廸子両氏の司会のもとに，事例報告 1. 図書館業務の機械化について (1) 閲覧業務の電算機処理について；小樽商大 宇野弘純 (2) 外国雑誌購入業務の電算機処理について；北大 諏訪田義美 2. 東京大学図書館情報学セミナーに参加して；北見工大 高砂 慶 があり，終始活発な質疑応答が交され，有意義かつ，盛会裡に終了した。

昭和54年度 北海道地区大学図書館職員研究集会に参加して

諏訪田 義美

8月8日北海道薬科大学を会場として開催された標記研究集会において，「外国雑誌購入業務電算機処理について」というテーマを事例報告いたしました。以下，誌面を借りその概略について述べさせていただきます。

1. 機械化への経過

機械化への発端は，「機械化準備班（仮称）」（昭和49年，図書館に発足）が行なった『他大学の事例研究』・『機械化対象業務の検討』がその始まりと考えられる。その中で，「外国雑誌の購入業務」が取上げられその後当掛に引継がれ具体化され現在に至っている。

機械化への作業は，業務の個々の作業を機械化へ移行して行くことにより，そのトータル的システムの完成を目指し進められた。

たとえば，業務の中の一作業にしかすぎない「外国雑誌購入リスト」の作成がその始まりである。そのための「何処で」・「何処から」・「何を」・「何部」というデータの把握，コードの設計，出力フォーマットの設計等を行ない試行実施することになった。また，その過程において，使用すべき電子計算機が図書館にはなく，事務局に事務共同利用として設置されているFACOM 230-28を使用することになった。

この様な過程を踏み，機械化への移行が行なわれ，現在では，予約・契約の両作業まで進められている。

2. 処理の概略

処理は，電子計算機の各機器（磁気テープ装置，ラインプリンター……）を使用し，バッチ処理により，各種マスター（雑誌名マスター……），各種リストの作成を行なっている。また，プログラムは極力小さく分割し，業務の変動に十分対処できうるように心掛け組まれている。

業務の機械化に伴い，各処理に必要なデータの収集も変更され，データの自然増に対応することが可能となった。さらに，各項目を必要に応じコード化することができ，各種チェック

が容易になり，それに伴う業務の迅速化，確実化，そして労力の省力化を導くことができるようになったわけである。

3. おわりに

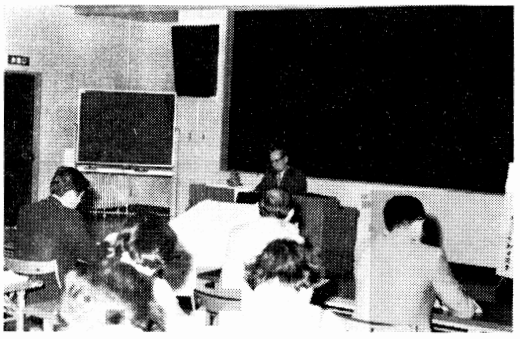
雑誌の受入が「部局による分散受入」の体制であり，さらに電子計算機も図書館独自のものがない現状において，受入状況を一カ所で逐次把握して行くことが難しく，また，同時にその精算作業もバッチ処理の域を抜けでることができないと思われる。

このように，当業務において，まだまだ解決しなければならない部分が数多く残っております。これらを少しづつでも機械化へ移行するよう考え，進めていく必要があると思います。

（整理課学術情報資料掛）

昭和54年　北海道地区国立大学図書館職員研修

昭和54年標記研修が去る9月26日（水）から28日（金）までの3日間附属図書館教養分館を会場とし，道内各国立大学（高専を含む。）図書館職員30名が参加して別紙日程表により実施された。



この研修は，道内国立大学図書館職員に対し図書館業務に関する最近の知識を付与するとともに，その資質の向上を図ることを目的としているもので，本年から教科目および時間数を充実して研修歴に記録されるものとなった。なお，本研修にあたり，関係者のご協力のもとに予定どおり終了したことを感謝するものである。

昭和54年　北海道地区国立大学図書館職員研修日程表

9:00 9:30	11:00	12:00 13:00	14:00	15:00	17:00
第1日目 9月26日（水）	開講式 特別講演 北海道大学附属図書館教養分館長 和田譲吾	当面する諸問題 北海道大学附属図書館事務部長 矢部一郎	昼食	学術情報システムの構成要素としてのわが国の大学図書館の問題 元慶応義塾大学教授 澤本孝久	
第2日目 9月27日（木）	図書館資料利用に伴うユーザーからみた情報検索上の諸問題 —研究課題指向の一事例（自然系）— 北海道大学応用電気研究所 教授 小山富康		昼食	個人書誌概説 東北工業大学附属図書館事務主任 大森一彦	図書館と著作権 —とくに文献複写業務について— 大阪大学附属図書館事務部長 東米吉
第3日目 9月28日（金）	日本目録規則新版制定の背景をめぐって 広島大学附属図書館事務部長 藤田善一	大学における図書館業務の契約関係について 北海道大学経理部主計課長補佐 小島三司	昼食	大学行政 —人事管理— 北海道大学庶務部人事課長補佐 樫野豊	図書館資料利用に伴うユーザーからみた情報検索上の諸問題 —研究課題指向の一事例（人文社会系）— 北海道大学経済学部教授 真野脩 閉講式

昭和54年度 大学図書館職員講習会に参加して

日 程 昭和54年10月30日(火)～11月2日(金)
会 場 東京大学総合図書館

本講習会は，昭和39年以来毎年図書館中堅職員を対象に行われてきたもので，本年の東京会場には各国・公・私立大・高専の図書系職員100名の参加があった。講習は4日間にわたり，文部省担当官及び大学の先生方を講師に迎え，① 大学図書館の使命，② 大学図書館行政，③ 研究者の図書館への期待（人文・社会科学系），④ 同（自然科学系），⑤ 大学図書館における参考調査活動の将来と発展，⑥ 専門職能としての大学図書館員，⑦ 外国における情報システムと大学図書館の現状，⑧ 大学図書館業務機械化の新しい方向，(1) —トータルシステム研究の概要—，⑨ 同 (2) —MARC データベースのオンライン利用実験—，⑩ 書誌調整標準化の国際的動向と日本の図書館，⑪ 我が国の今後の学術情報システムと大学図書館，⑫ 相互協力活動の今後の課題の12の講義が行われた。講義のテーマはいずれも現在，図書館が直面し解決しなければいけない重大な問題に関したもので非常に時宜を得たものであり，一つ一つの講義が大変有意義であった。特に東工大，市川先生の「研究者の図書館への期待」は啓発的であり，日常大学図書館に身を置くものとして身のひきしまる思いであった。全体的には学術審議会の中間報告でも言われているように全国的な「学術情報システム」の形成・確立と情報資料の収集提供という大学図書館の今後のもっとも大きな課題について多くの知見を得ることが出来た事が収穫であった。現在の感想としては大学図書館のこうした役割を我々一人一人が組織の核となって担っていかなければならないということである。

（整理課受入掛 笹 川 郁 夫）

正 誤 表 No. 51 (Aug. 1979)

頁	誤	正
517	昭和53年度 附属図書館利用統計の表中 （入室者統者なし）	（入室者統計なし）
517	同表備考1)中 （座席だけは利用者は含まず）	（座席だけの利用者は含まず）
518	昭和53年度 学外への文献複写申込件数の表の上段中 件 部	件 数

◇ 人事往来 ◇

新図書館長

塩　谷　　饒（文学部教授）54. 10. 1

前図書館長

高　嶋　正　彦（農学部教授）54. 9. 30（任期満了）

新図書館委員

太　田　　守（歯学部教授）54. 12. 1

採　　用

守　田　敦　子　閲覧課第二運用掛　54. 9. 1

秋　葉　真　理　子　整理課教養分館閲覧掛　54. 10. 1

石　井　理　枝　子　整理課整理掛　54. 10. 25

配　置　換

小笠原　敏　明　医学部図書閲覧掛（整理課学術情報資料掛）54. 10. 1

転　　出

五十嵐　哲　郎　筑波大学図書館管理課洋書係（整理課整理掛）54. 10. 1

退　　職

田　山　美　樹　子（整理課整理掛）54. 9. 29

石　坂　幸　子（整理課教養分館閲覧掛）54. 9. 29

北海道大学附属図書館報　「楡蔭」　（通巻52号）
1979年12月4日 発行　　発行人　矢　部　一　郎
編集委員　横山梅雄（長）・若月　修・遠藤雄作・似鳥正吾・野地俊郎・高橋　裕・坪田充弘
遠　昭二・平田忠夫・杉尾勝茂・山本幾夫・船木敏美・山口国雄
発 行 所　北海道大学附属図書館　札幌市北区北8条西5丁目　電話代表 711-2111 (2967)
印 刷 所　文 栄 堂 印 刷 所　札幌市中央区北3条東7丁目　電話代表 231-5560-5561